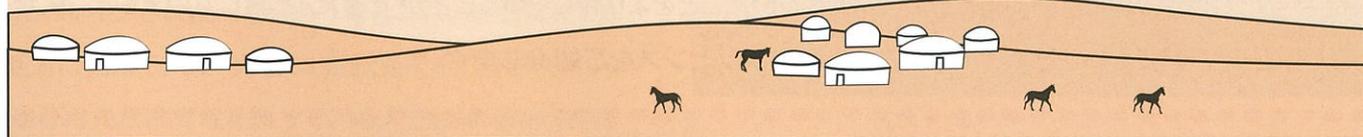


Newsletter

vol.42

「ぴあ・かもみーる」日記②●
性の講座●



パオの
現いま在

「ぴあ・かもみーる」日記②

ステップハウス「ぴあ・かもみーる」に集まる子どもたちは、世間の同世代の子どもたちと特別何かが違うというわけではありません。おしゃれやアイドルに関心があり、ツイッターやインスタグラムなどのSNSの情報に一喜一憂しています。恋バナをするときの表情は、今どきの十代らしく何とも可愛いらしいです。壮絶な過去を持ち、いろいろとつらい思いをくぐり抜けてきた…なんて表面からは分かりません。

それでも手首に数えきれないリスカの痕があったり、悪夢や不眠を訴えたりする様子から、そのしんどさをうかがい知ることがあります。言語化できない苦しみを隠し持つ子どもたちと一日一日、一緒に過ごしていくこと、それはだからこそ、「安心してね」「大丈夫だよ」というメッセージを送り続ける日々となります。

ぴあかもでは、安全な住居や手作りの食事の提供はもちろんですが、このメッセージを日々送ることがスタッフの大事な仕事です。少し逆説的になりますが、それは伝えるのではなくて、子どもたちの話に耳を傾けることです。話を聴くだけでなく、表情や動作など全身で表してくれる「わかってほしい」気持ちを読みとることになります。今までの生活で「わかってほしい」気持ちが伝わらずに苦しい思いを抱えている子どもたち。ぴあかもでも少しでも「聴いてくれるんだ」「話してもいいんだ」という体験をしてほしいと思っています。

ある時、ピアスの穴を開けることは自分にとって自傷行為なんだ、と話してくれる子がいました。ただおしゃれだから、ではないその理由に、それまで苦しんできた気持ちが伝わり、私の心は悲しくなりました。やたら開けたがるピアスに意味があったのです。自分の身体を傷つけることでどうにもならない気持ちを収めるなんて…。言葉を失いました。

またある時、スタッフが仕事を終えて帰ろうとすると、一人が「行ってらっしゃい」と言いました。ぴあかもでは、スタッフでも子どもたちでも、出る時に玄関で見送る習慣があります。その時、その子はそう言ったのです。出勤すると「おかえりなさい」と言う。びっくりしましたが、ぴあかもに住人であるその子にすれば、それは当たり前のことでした。自分の居場所としてぴあかもを強い想いで位置付けている、それは裏を返せば住んでいた家に居場所がなかったということです。胸を突かれる思いでした。

中学を卒業したばかりでぴあかもに来た子もいます。同じ年ごろで将来について真剣に考えなくてはならない子はまだそう多くはないでしょう。でも家庭の後ろ盾が期待できない子たちは羽を休めつつも、今後について早めに考えざるを得ません。その子は美容師になりたいという思いを就労体験という形で叶え、結果として違う道を目指すことにしました。憧れだけではできない仕事の厳しさを学ばせてくださった体験先へ感謝すると共に、落ち込むことなく他の業種へチャレンジしようとしているその子の意欲に驚きました。子どもって可能性の塊だなあと嬉しい気づきがそこにありました。

何でもない毎日を過ごせること。それがぴあかもの大切な毎日です。(スタッフ・H)

